

「神と和解し信仰にとどまり福音を宣べ伝える」

コロサイ 1：21～23

堀田修一 25・5・4

I かつて「あなたがたも、かつては神から離れ、敵意を抱き、悪い行いの中にありましたが」：21。私たちも、かつて、主を信じ、神に救っていただくまでは→

1. 「神から離れ」ていました。神は、人を神と交わりを持つために造られたが、私たちは自分の罪ゆえに、神との関係を壊し、神と交わることができなくなっていた。「そのころのあなたがたは、キリストから離れ…この世にあって望みもなく、神もない人たちでした」(エペソ2：12)。※人生を振り返り感謝が溢れます！「彼らは、その知性において暗くなり、彼らのうちにある無知とかたくなな心とのゆえに、神のいのちから遠く離れています(→主を信じると神のいのちに近づき神と交わる永遠のいのちをいただける)」(4：18)。暗い知性と無知の私たちが、神を知り続ける人生に変えられ続ける。「永遠のいのちとは、彼らの唯一のまことの神であるあなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストとを知る(知り続ける)ことです」(ヨハネ17：3)。

2. 「心において敵となって」いた。神は私たちを愛して救おうと待っておられるのに、私たちは、心において神に敵対していた。「神なんかいない」「神に頼らなくても自分の力で生きるのだ」と。自分の姿。

3. 「悪い行いの中にありました」。私たちは、心に罪、悪があるので、悪い行いの中に生きていた。「神を知ろうとしたがらない…あらゆる不義と悪とむさぼりと悪意とに満ちた者、ねたみと殺意と争いと欺きと悪巧みでいっぱいになった者、陰口を言う者、そしる者、神を憎む者、人を人と思わぬ者、高ぶる者、大言壮語する者、悪事をたくらむ者、親に逆らう者、わきまのない者、約束を破る者、情け知らずの者、慈愛のない者です」(ローマ1：28～31)。「不品行、汚れ、好色、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、ねたみ、酩酊、遊興」(ガラ5：19～21)。自らの数え切れない罪のゆえにとっくに滅んで当然の私たちだった。驚くべき神の恵み、憐れみ、忍耐、寛容がなければ、今の私たち、すべての人類は滅び、存在していない。「私たちが滅びうせなかったのは、主の恵みによる」(哀歌3：22)。しかし→

II 今は「今は、神が御子の肉のからだにおいて、その死によって、あなたがたをご自分と和解させてくださいました。それはあなたがたを、聖なる者、傷(罪)がない者、責められるところのない者として御前に立たせてくださるためです」：22。

1. 「神は、御子の肉のからだにおいて、しかもその死によって」→私たち、肉のからだを持つ人間の罪を背負い、人間の身代わりに死ぬために、神である御子は、肉のからだを持つ人間となられ、この世に来られた。そして十字架で聖い血を流し私たちのすべての罪を背負い死なれ、私たちが受けるべき刑罰を受け私たちの罪の償いを完全に成就された(ローマ8：3)。

2. その死を通して「あなたがたをご自分と和解させていただきました」。神との関係を断絶させ、邪魔していた私たちの罪が十字架の血で赦されることにより、神との関係が回復する和解。神と深い交わりができる和解の恵み。その恵みは、関係の回復を生む。自分との関係の和解（神に愛されている自分を愛し、赦し受け入れる）、人との関係の和解（神が愛されているその人を、まず自分が愛されているように、神の愛で愛し、赦し、受け入れる）を生み出す。真実な愛で向き合う行程、プロセスを通して。

3. 目的。「それはあなたがたを、聖なる者、傷（罪）のない者、責められるところのない者として御前に立たせてくださるためです」。

- ①主を信じることによる義認の恵み＝私たちには罪があるが、主の十字架の故に無罪、義の立場にされる。神は、私たちが、主の十字架の血の贖いを信じる時に、主の贖いの血をご覧になり、滅びを過越し、私たちの罪を赦し、主の義の衣を着せて下さる。
- ②聖化の恵み。実際に御聖霊により聖められ続ける。「私たちはみな、…栄光（神の御性質）から栄光へと、主と同じかたちに姿（聖・愛）を変えられていきます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです」Ⅱコリント3：18。「御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です」ガラテヤ5：22, 23。みことばと祈りによる個人的な主との交わり・主にある互いの交わり・主の臨在される礼拝を通して。神の愛の訓練（試練、苦しみ）を通して私たちは主の姿（品性）に変えられ続けます。
- ③栄化の恵み。再臨の主にお会いし、主の栄光の姿に変えられ、罪のない栄光のからだをいただく。本当に「聖く、傷（罪）がなく、非難されるところのない者として（偉大な神の）御前に立たせてくださる」。個人的にも、主の花嫁の教会としても。エペソ5：27。

Ⅲ 信仰生活は全くの受身ではない。神は、私たちがなすべき分を与えておられる。真の敵、悪魔は、私たちを誘惑し、福音からはずれさせ、信仰から離れさせようとする。エペソ6：11, 12。それゆえ→

1. 「ただし、あなたがたは信仰に土台を据え、堅く立ち、聞いている福音の望みからはずれることなく、信仰に踏みとどまらなければ（原語：留まる、から離れない）なりません」：23。そのためには、

- ①主を信じ洗礼を受けて終わりではなく（洗礼はゴールではなくスタート）、その後からが本番で、しっかりとした土台である聖書のみことば、福音を聞き続け、みことばを読み味わい養われ続ける。
- ②自分だけで私的解釈をしないために、教会の礼拝でのみことば、祈り会でのみことばで養われる。
- ③信仰の対象である主に留まる。 i 個人的な主との交わり（ディボーション）で主に留まる・ ii 礼拝を大切にして主に留まる・ iii 一人では弱いので（「人が、ひとりでは良くない。わたしは彼のために、彼にふさわしい助け手を造ろう」創2：18）、主を中心とした交わりを通して互いに支え合い、福音からはずれず、信仰（主）にとどまり続ける。もし自分の罪を示されたら、神に正直に罪を告白し赦しと十字架の血と聖霊のきよめをいただき続ける。

2. 「この福音は、天の下のすべての造られたものに宣べ伝えられており、私パウロはそれに仕え

る者となりました」：23。主はご自身のいのちをかけて成就された福音（「自分の罪を認め主を信じるなら救われる」という良き知らせ）が、すべての造られたものに宣べ伝えられることを心から望んでおられる。パウロにだけではなく、私たちにも福音を伝えるべき人々が備えられている。主の摂理の中で与えられた家族知人友人がいる。福音の恵みは、自分だけでしまっておくのではなく、他の人に福音の恵みを分かち合い伝える時、その恵みがますますわかり自分も恵みにあずかる。※高校時代の恵み（真剣に予習をし学び真剣に伝える恵み）と現在まで多くの方々に福音を伝える機会が与えられた恵み。分かち合いの恵み。学びをする方々がご聖霊による新生の恵みを受け、主を喜び主に変えられる姿を目の当たりにする恵み。「弱い人々には、弱い者になりました。弱い人々を獲得するためです。すべての人に、すべてのものとなりました（神が出合わせて下さる方々を愛し仕え、祈り、関係作りをし、時が満ちて福音を伝えた）。それは、何とかして、幾人かでも救うためです。私はすべてのことを、福音のためにしています。それは、私も福音の恵みとともに受ける者（福音を伝えることにより自分も福音を深く知り続け恵みを受け続ける者）となるためなのです」Ⅰコリント9：22，23。

応答の賛美を捧げましょう。祈り。